

# お知らせ

## 五月例会

期日…立教 189 年 5 月 25 日  
時間…15 時 30 分受付 16 時開始  
会場…教庁 4 階講堂

## 学生層育成者講習会

### 日程・会場案内

教区  
・宮崎 5 月 1 日 教務支庁  
・愛知 5 月 31 日 教務支庁

直属  
・牛込 5 月 2 日 大教会  
・東本 5 月 16 日 大教会  
・河原町 5 月 21 日 大教会  
・周東 5 月 21 日 大教会  
・本島 5 月 22 日 大教会  
・中野 5 月 22 日 大教会  
・佐野原 5 月 23 日 大教会  
・中野 5 月 23 日 大教会  
・豊岡 5 月 23 日 大教会  
・西陣 5 月 23 日 大教会  
・防府 5 月 23 日 大教会

## 報告

学生担当者報  
三月例会  
去る 3 月 25 日、教庁 4 階講堂において「3

月例会」を開催。出席は 25 教区、93 直属。  
**各地の動き**

直属学生層育成者講習会  
・笠岡 3 月 21 日 大教会  
中山祥吉委員長出向

## 人事

《立教 189 年 3 月 25 日付》  
【直属学生担当委員長辞令交付】  
・兼光徳郎（撫養・満京）  
《立教 189 年 3 月 31 日付》

【学生担当委員会事務局退職】  
・並木マリアナ弘江（水口・本大久野）  
《立教 189 年 4 月 1 日付》

【学生担当委員会事務局新局員】  
・深谷久仁子（やまとよふき）  
・坂口アリッセ和恵  
（兵神・ノルデステ芳洋）

## 業務記録

《立教 189 年 3 月 16 日～4 月 15 日》  
3 月 17 日 まなびばチーム会議  
19 日 事務局連絡会

24 日 広報部部会

25 日 研修会チーム会議

25 日 委員会 例会

27 日 学生部部会

27 日 教祖百四十年祭

27 日 学生おぢばがえり大会

28 日 前夜祭「春 F e s 140」

28 日 教祖百四十年祭

28 日 学生おぢばがえり大会 式典

4 月 1 日 まなびば Lite チーム会議

5 日 学修部部会

6 日 担当者活動部部会

6 日 人材育成部部会

6 日 委員会

7 日 高校の部研究室

7 日 広報部部会

7 日 学生部部会

7 日 学生連絡会

7 日 大学の部研究室

7 日 高校卒業生コース研究室

7 日 学修係員チーム会議

7 日 教祖百四十年祭

7 日 学生おぢばがえり大会

10 日 プロジェクトチーム会議

10 日 事務局連絡会

# 5

Vol. 471  
立教 189 年  
2026 年  
4 月 25 日発行

# 学生担当者報

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 中山祥吉 編集責任者 / 東井申雄

TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net



## 教祖百四十年祭 学生おぢばがえり大会

3 月 28 日、本部中庭にて「教祖 140 年祭学生おぢばがえり大会」式典を開催し、道の学生 3,748 名が参加しました。

当日は快晴の御守護のもと、真柱様より学生に向けてメッセージ（代読）を頂戴し、今後の道の学生の歩み方を分かりやすくお示しいただきました。また、真柱奥様をはじめ来賓の先生方のご臨席を賜り、立派なようばくへと成人する決意を申し上げました。そして式典に続いて参加者全員でこの大会に帰り集えた感謝と、これからの成人へ歩みを進めていく決意を込めて、一手一つにおつとめをつとめました。

また、前日の 27 日夕つとめ後より「春 F e s 140」を行い、全国各地からおぢばに帰り集った学生達は、ステージや昨年よりも倍の数に増えた様々な模擬店を楽しみ、笑顔と活気あふれる時間を過ごしました。教区、直属の担当の先生方にはそれぞれのお立場の上に、一生懸命おつとめくださいまして誠にありがとうございました。

立教 189 年 学生担当委員会 活動方針  
「真にたすかるこの道を、共に歩もう」

# 次代を担うようぼくへ

実行委員長 挨拶 武田 直也



今日は、真柱奥様のご臨席を賜り、来賓の先生方をお招きして、ここに「教祖140年祭 学生おぢばがえり大会」式典を開催できたこと、心より感謝申し上げます。本年1月26日に教祖140年祭を無事に迎えることができました。私たち学生も、「みんなでおぢばへ」という合言葉のもと、今日こうして皆さんの仲間とおぢばに帰り集うことができました。皆さん、ようこそおぢばにお帰りくださいました。親神様、教祖もお喜びくださっていると思います。

思い返せば、今日に至るまで、私達には本当にいろいろなことがありました。嬉しかったこと、楽しかったこと。そして、悲しかったこと、苦しかったこと。それでも今日、ここにみんなが集まっているのは、いつもそばで支えてくれる家族、仲間の存在があったからです。そして何より、日々お守りくださっている親神様・教祖のおかげです。正直に言えば、悩み、落ち込み、心が曇ってしまう日もありました。そんなとき私は、「教祖なら、こんなときどうされるだろうか」と何度も自分に問いかけました。どんな中も心明るく、人をたすけて通られた教祖のひながたを辿る努力をする度に、心はだんだん明るくなっていき、自然と周りの人への感謝の気持ちが湧いてきました。本当にお道の教えは、私たちの心をたすけてくれます。これからの人生も、思うようにいかないこと、

悲しみに暮れることもあるかもしれません。ですが、そんなときこそ思い出してください。起こってくることは、どんなことでも親神様からのメッセージであり親心がかもったプレゼントだということ。そして、道につながる仲間のこと、今日ここで共に過ごした、この時間を。私達は、決してひとりではありません。いつも親神様、教祖に守られ、仲間を支えられて生きています。その中で、誰かへの感謝の心が芽生えたなら、どうかその思いを、言葉や行いにして「ありがとう」を伝えましょう。もし、困っている人がいれば、やさしい心をもって、その人を想い、声をかけましょう。そしてまた、みんなでおぢばへ帰りましょう。帰るたびに、親神様、教祖はお喜び下さり私たちは笑顔になり、陽気になれるはずです。日々、素直に、明るく、これからどんなことがあっても、みんなが進んでいきましょう。

只今から、真柱様より私たち道の学生に向けてメッセージを頂戴いたします。私たちがこれから歩む中で大切な指針となります。真柱様から頂戴するお言葉を通して、親神様、教祖の思いを心に治め、共に道の次代を担うようぼくへと成人していくことを誓い合しましょう。

また式典終了後におつとめをつとめさせて頂きます。今日ここに集えたこと、そして、これまで親神様に頂いたご守護への「ありがとう」を願います。「という感謝の心を胸に、人のたすかりを願いながら、私たち一人ひとりが教祖のようなやさしい心でおたすけの一步を少しでも踏み出せるよう、みんなで心を込めておつとめをつとめさせていただきます。ありがとうございます。

# 決意表明

久住 優斗



今日は「教祖140年祭 学生おぢばがえり大会」式典を無事に開催できたことを心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。私たち学生は、先ほど頂戴した真柱様のお言葉を心に治め、一手一つに成人の道を歩ませていただきます。

今私たちが何気なく生活している中で、たくさんさんの「喜び」があります。身体が動くこと、周りに仲間がいること、そして、今日おぢばに帰り集えたこと、全ては当たり前ではなく、親神様・教祖が下さったご守護や、お引き寄せです。この感じた喜びを周りの人に広め、一緒に喜びを感じ合い、日頃から親神様・教祖のご守護に感謝しておつとめ、そしてひのきしんを実践していきます。

私自身、小さいころは素直に喜べず、起こってきたことに不満を抱いてしまう時もありました。しかし、家族が病気になるた

時にお願いとめをして、ご守護を頂いたことがあります。それを通して、起こってくることはどんなことでも親神様の親心だと感じることで、喜べるが増えていきました。そして、日々の生活の中で身近にあるたくさんさんの喜びを感じられるようになり、お道の教えが大好きになりました。

ですが、私たちはまだまだ未熟な学生です。この先悩むことや、大きな壁に直面することもあるかもしれません。そんな時こそ、困っている人がいれば相手を思いやる心で声をかけ、自分が困っているときには、勇気をだして周りの仲間頼ること、仲間の存在をより感じることでできます。そしてたすけ合うことでたくさんさんの「感謝」と「喜び」に気付くことができます。そんな時には、素直に「ありがとう」と伝えていきます。

今ここにいる仲間、そして、全国の仲間と共に、教祖のひながたをたどり、日々頂戴しているご守護に感謝して、やさしい心で人たすけのできるようぼくへと成人していくことをここに決意します。

# 青空

おぢばでの生活も六年を超え、おぢばが身近にあることがいつしか当たり前になり、この辺りの街並みも飽きてきた、そんななんと驚きでもつたない不足を抱いていた頃、教祖百四十年祭に向かう三年千日が始まりました。

そのうちの二年を勤務者として本部の御用に遣っていただけのことになり、日常にお道の教えが溢れるようになり、おつとめやひのきしんといった実践も以前より増えてきました。年祭へと向かうおぢばの雰囲気を感じて、当たり前前になつていたおぢばでの生活が、有り難くて仕方ないと心から思うようになりました。

私事ですが、この春、約九年にわたるおぢばでの生活を終えることになりました。おぢばで過ごす最後の三年を、年祭に向かう三年に充てていただき、親神様、教祖の親心を感じられずにはいられません。

おぢばを離れても、この九年で感じたことを忘れず、おぢばに心を繋ぎ続けたと思います。

学生担当委員会 局員 番場 真結

学生向けの教典入門!

## 教典のススメ

— 教えを心の拠り所に —

### 本部員 井上護夫

新連載!  
教えをまなぶシリーズ

全  
24  
回